

農業の新しい技術

No. 666 (平成25年5月)
分類コード 02-10
熊本県農林水産部

ナシ「秋麗」の本摘果時における適正着果数は、側枝1 m当たり4果が最適である

農業研究センター 果樹研究所落葉果樹研究室
担当者：藤丸 治

研究のねらい

ナシ「秋麗」は食味が優れているが、着果が非常に良好であるため小玉になりやすい。これまで、満開25日後までに予備摘果を終了することにより大玉生産が可能であることを明らかにしたが、本摘果時における適正着果数については明確な指標がなかった。そこで、本摘果を実施する際の側枝長当たりの適正着果数を明らかにする。

研究の成果

1. 満開40日後頃に、側枝（着果させている枝）1 m当たり5果着果させた場合、果実肥大がやや鈍くなり、果実横径も小さくなるが、4果以下であれば順調に肥大する。（図1）。
 2. 収穫時の1果重は、5果着果ではやや小玉となるが、4果以下では400 g以上の大玉となり、果実品質および食味も良好である。樹冠占有面積当たりの着果数に換算すると、1 m²当たり4果区は10.7果である。（表1）。
 3. 果実の階級比率は、5果区では310g以下の小玉果の割合が多くなる。（図2）。
- 以上のことから、「秋麗」では、予備摘果を早く終わらせても、その後の着果が多すぎると小玉果が多くなるため、本摘果時（満開40日後頃）に側枝1 m当たり4果程度に制限することで収量が確保され、大玉生産が可能である。

普及上の留意点

1. 予備摘果は満開25日後までに終わらせること（成果情報N0.469）が前提条件である。
2. 着果数の基準となる側枝長は、棚付して着果させている枝のみを対象とし、着果させていない予備枝等の側枝（短果枝を育成している側枝）の長さは含まない。
3. 側枝間隔は約30 cm程度とする。
4. 新梢伸長停止後（7月前半）に小玉果、変形果等を10%程度摘果して最終着果数とする。

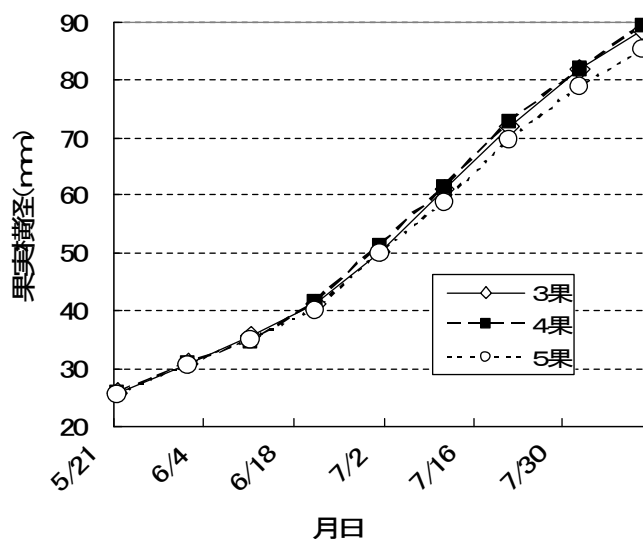


図1 「秋麗」における側枝1m当たりの着果数と果実肥大の推移(2011、2012年平均)

表1 「秋麗」における側枝1m当たり着果数と果実品質(2011、2012年平均)

区	1果重 g	横径 mm	縦径 mm	果肉硬度 lbs	糖度 Brix	果形 ¹⁾	地色 ²⁾	着果数 個/m ²	換算収量 ³⁾ kg/10a
3果	410a	95.1a	78.8a	4.1a	14.6a	4.1a	2.8a	7.7	1,976
4果	407a	95.1a	78.6a	4.1a	14.5ab	4.2a	2.9a	10.7	2,702
5果	356b	90.4b	75.2b	4.1a	14.2b	4.2a	2.9a	14.6	2,906

1) 果形は良:5~不良:1までの5段階評価

2) 日本ナシ地色用カラーチャート値

3) 本摘果後の修正摘果10%実施、M以下を除外、樹冠占有率70%にて換算

注) 同一列内の異符号間は、Tukeyの多重検定により1%水準で有意差あり

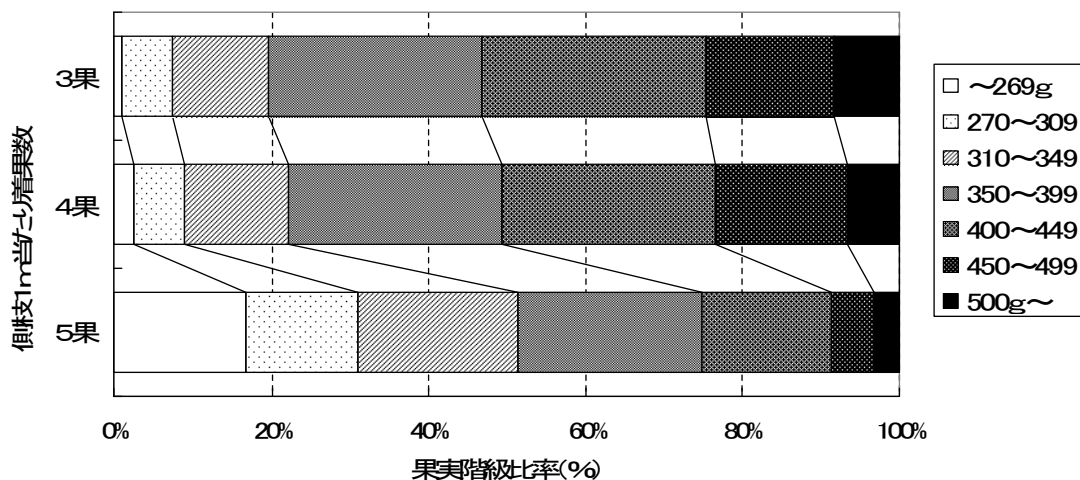


図2 「秋麗」における側枝1m当たりの着果数と果実階級比率(2011、2012年平均)